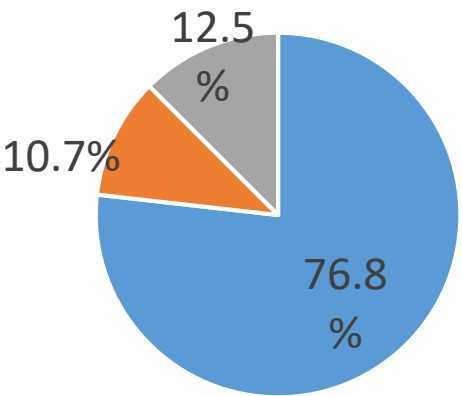


# 板橋区コミュニティ・スクールに係る アンケート調査 《地域コーディネーター回答用》 まとめ

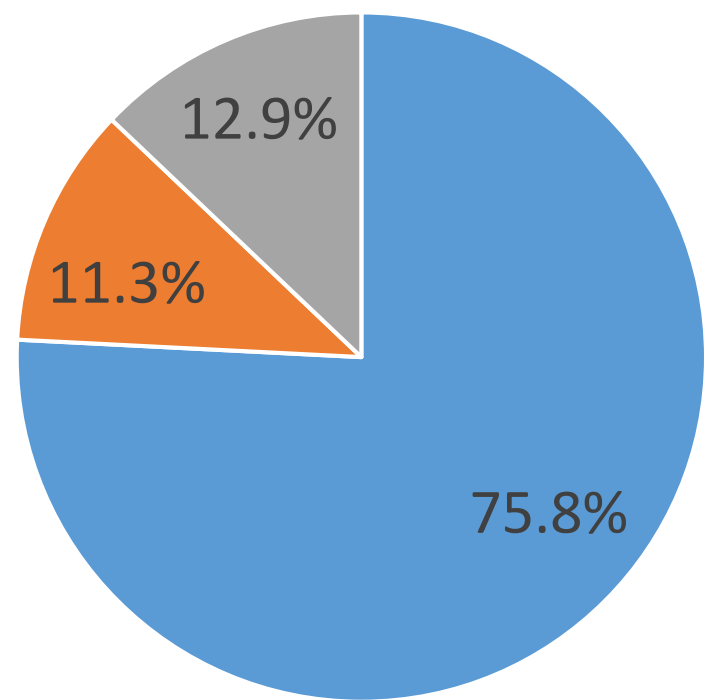
令和5年度

# Q1 地域コーディネーターとしての活動の時間数は、総合的に見て適切だと思いますか。

令和4年度



令和5年度



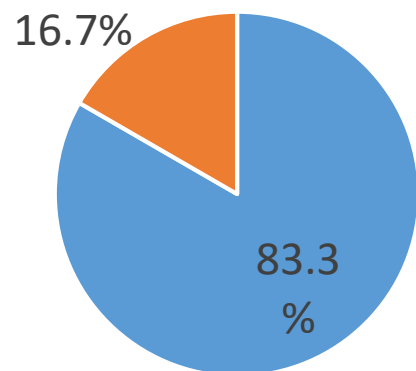
■ 適切 ■ 多い ■ 少ない

活動時間数が「適切である」とする地域コーディネーターは約75.8%であった。

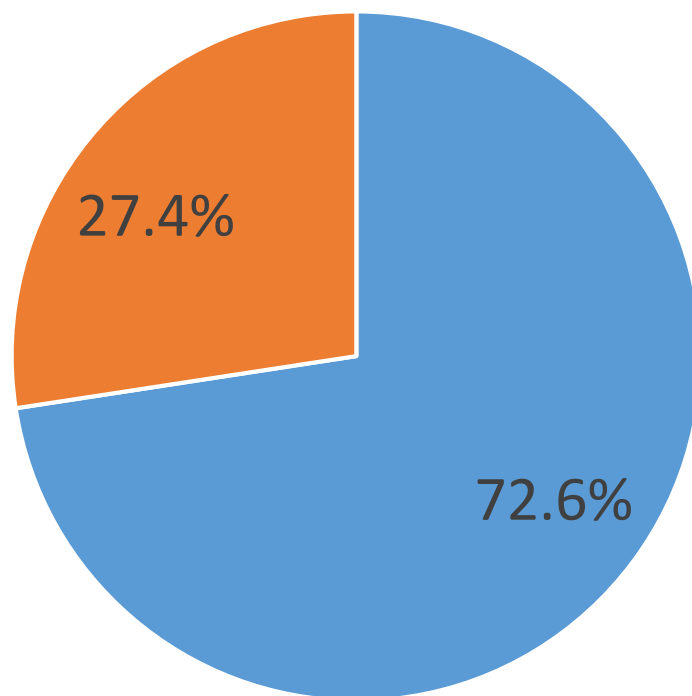
昨年度とほぼ横ばいで、各校の支援活動が少しずつ定着してきたと推測される。

## Q2 支援活動実施前に学校との打ち合わせは十分に行えていると思いますか。

令和4年度



令和5年度



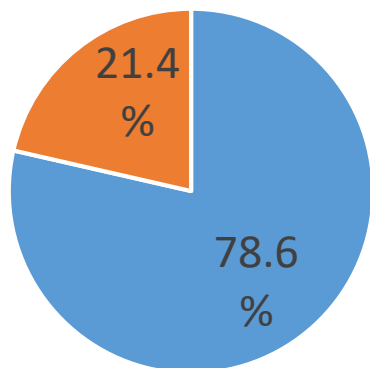
■ 思う ■ 思わない

学校との打ち合わせが十分であると思う地域コーディネーターは、約72.6%であった。

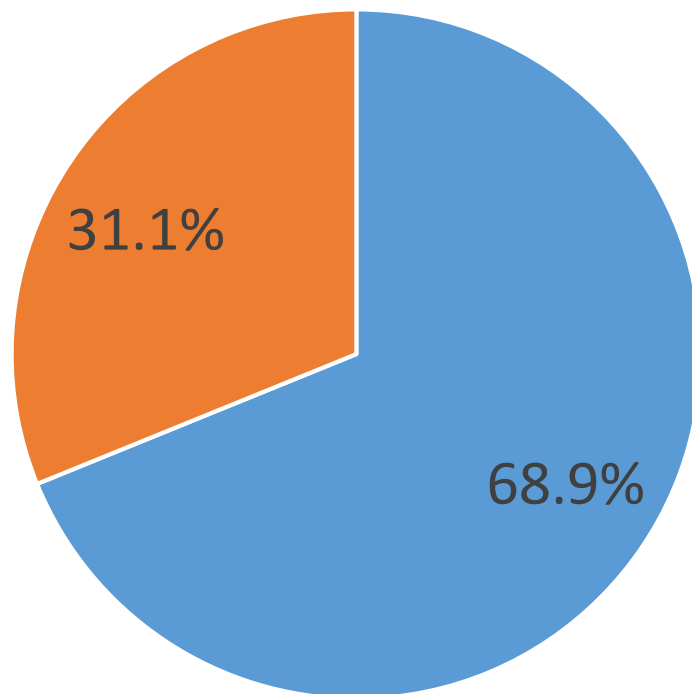
思わないと回答する理由として、活動が定着してきたとしても、打ち合わせは引き続き必要だと感じている方が多いと推測される。

### Q3 支援活動実施前にボランティアとの打ち合わせは十分に行えていると思いますか。

令和4年度



令和5年度



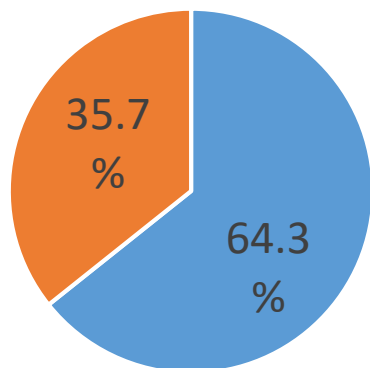
■ 思う ■ 思わない

ボランティアとの打ち合わせが十分であるとする地域コーディネーターは、約68.9%であった。

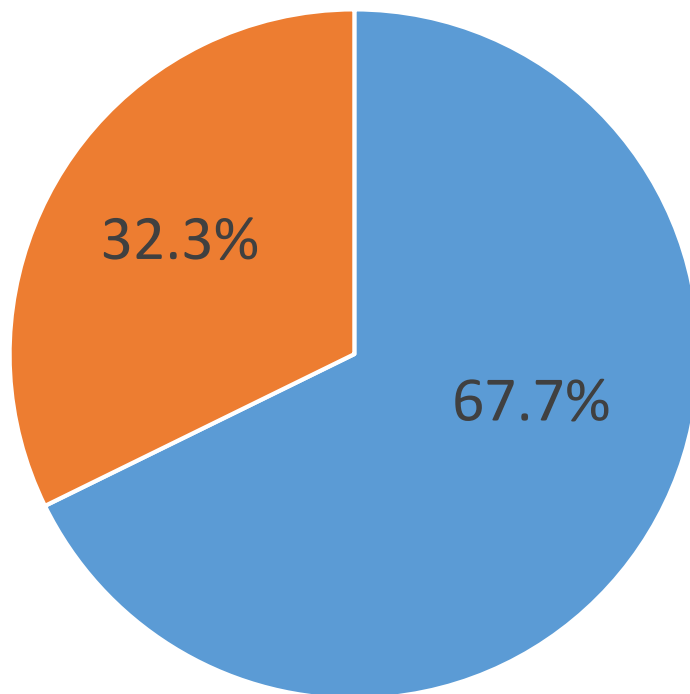
思わないと回答する理由として、ボランティアとの連携方法の難しさを示していると推測される。

## Q4 他の団体(おやじの会、PTA、寺子屋、町会、企業等)と連携ができていると思いますか。

令和4年度



令和5年度

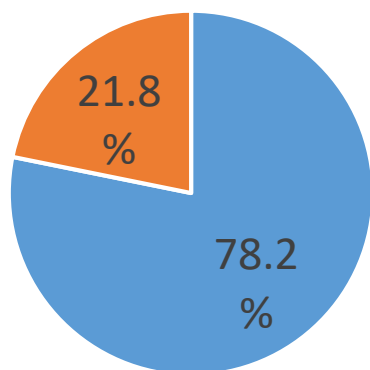


■ 思う ■ 思わない

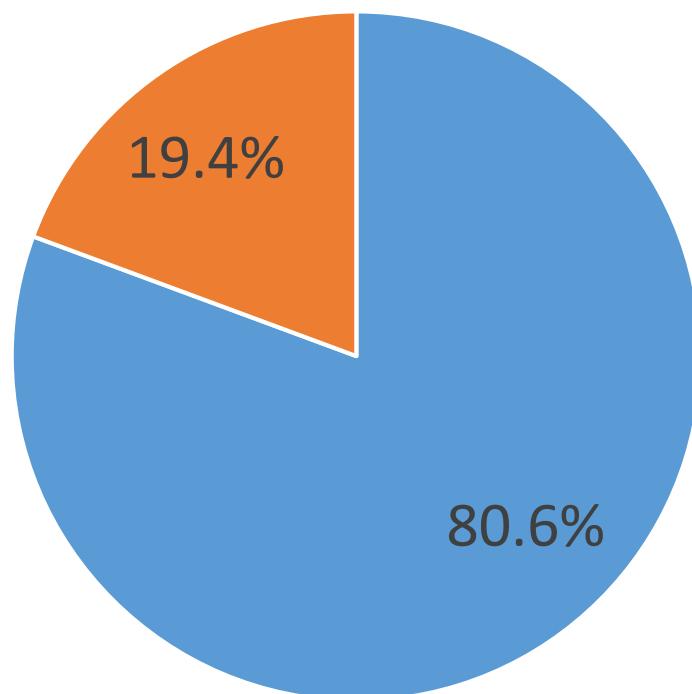
他の団体と連携ができているとする地域コーディネーターは約67.7%おり、特におやじの会やPTAと連携をとれているとする回答が多かった。

## Q5 活動をするにあたって、課題と感じていることはありますか。

令和4年度



令和5年度



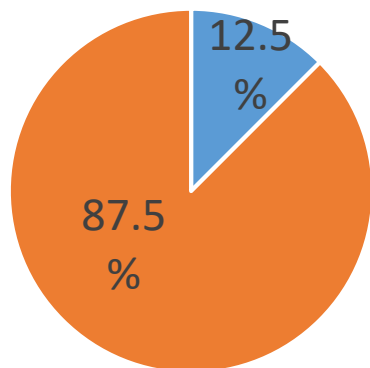
■ ある ■ ない

約80.6%の地域コーディネーターが課題を感じていると回答した。

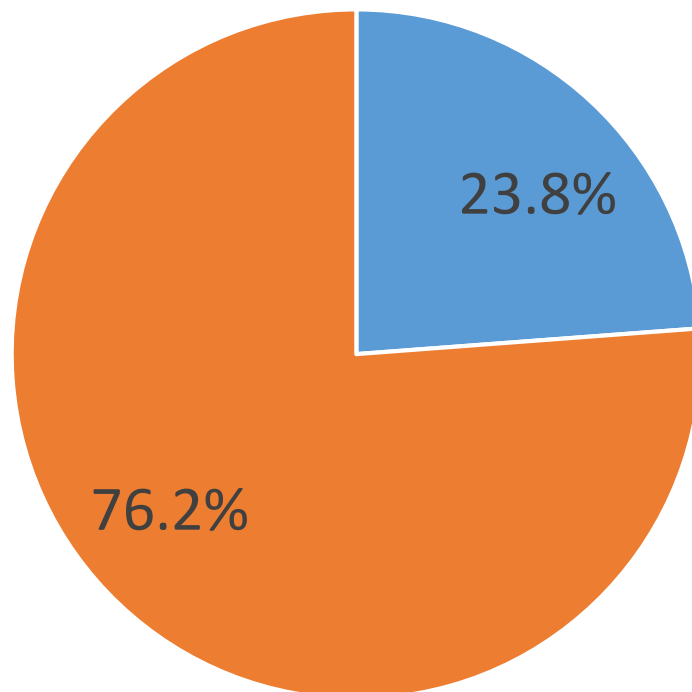
ボランティアの募集方法や後任の育成について課題を抱えている地域コーディネーターが多くみられた。

## Q6 統括コーディネーターに個別に相談したいことはありますか。

令和4年度



令和5年度



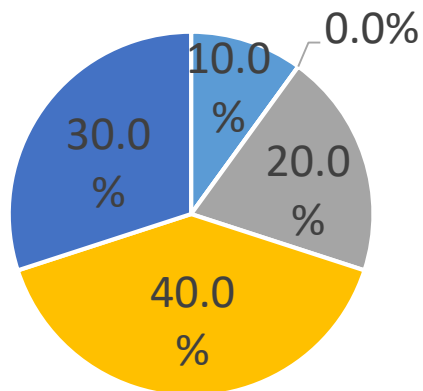
■ ある ■ ない

統括コーディネーターに相談したい地域コーディネーターは、約23.8%と昨年度より増加した。

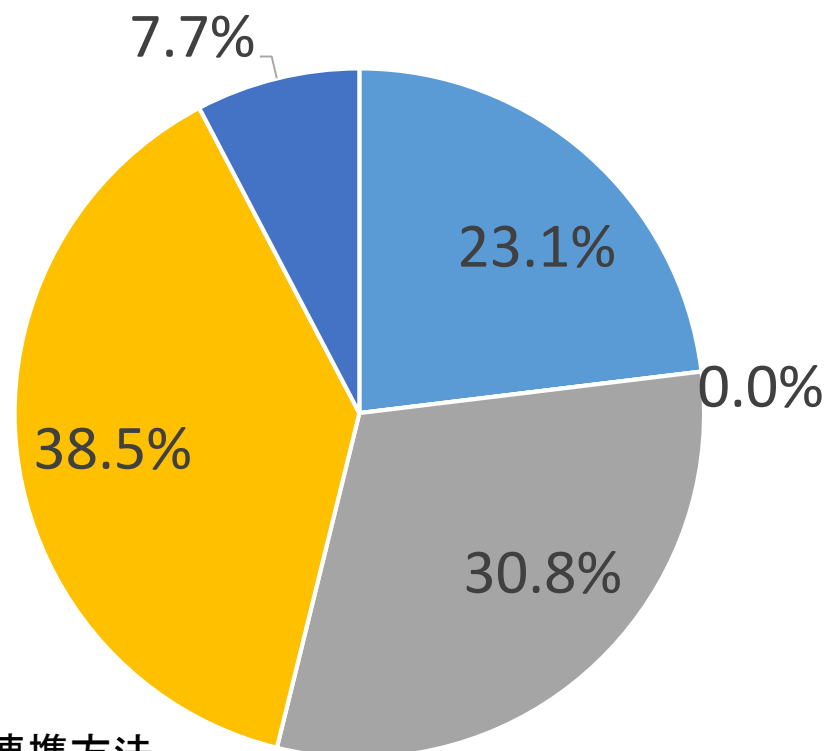
統括コーディネーターの存在が認知され、相談したい地域コーディネーターが増えたと推測される。

## Q6-2 統括コーディネーターにどのような内容を相談したいですか。(複数回答可)

令和4年度



令和5年度



問5の活動にあたっての課題としても挙げられていた、④「次世代のコーディネーターの育成方法」について相談したいとする回答が多くみられた。

① 新たな学校支援活動の開始方法

② 他校の地域コーディネーターとの連携方法

③ 学校との連携方法

④ 次世代のコーディネーター育成方法

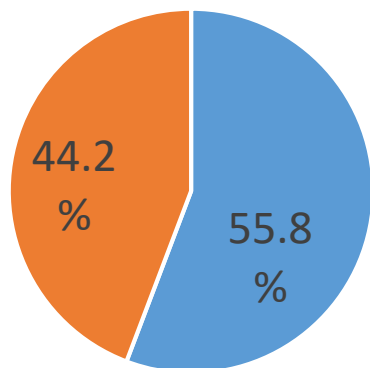
⑤ その他



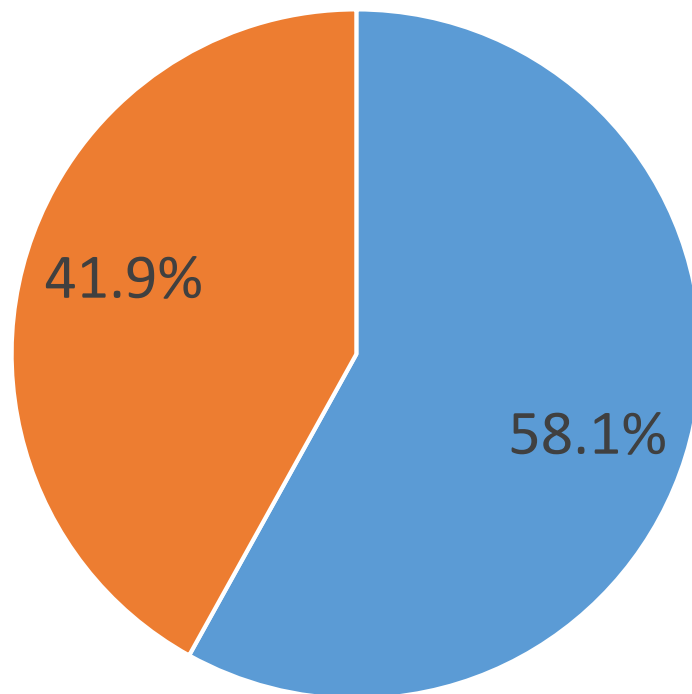


## Q7 CS委員会は学校支援地域本部の活動に効果的な影響を与えていると思いますか。

令和4年度



令和5年度

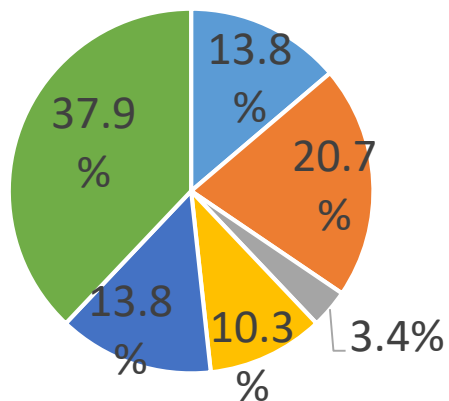


■ 思う ■ 思わない

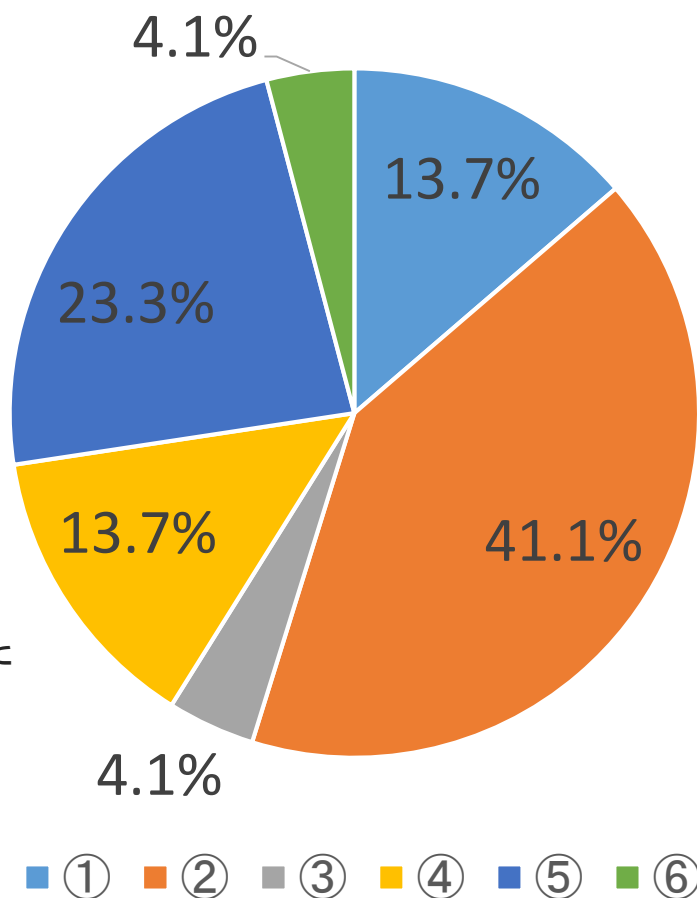
約58.1%の地域コーディネーターが、CS委員会が学校支援地域本部の活動に効果的な影響を与えていると回答した。

## Q7-2 CS委員会は学校支援地域本部の活動に効果的な影響を与えていると思いますか。 上記の回答理由を選択してください。(複数回答可)

令和4年度



令和5年度

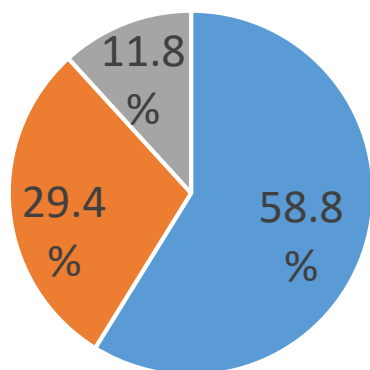


「学校のニーズがわかりやすくなった」や「学校支援地域本部の知名度が上がった」とする回答が多く見られる一方、「今までとの違いがわからない」とする回答もまだ多く見られる。

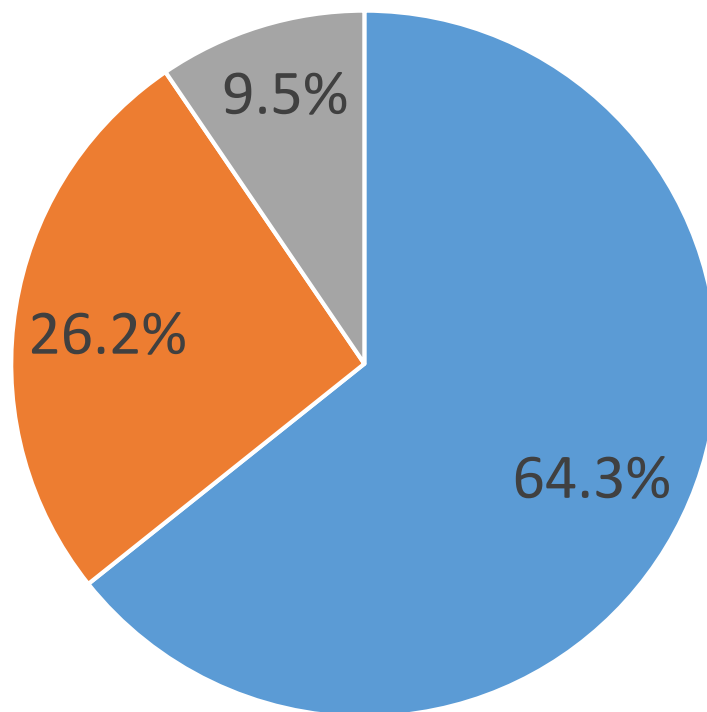
- ① 学校支援地域本部の知名度が上がった
- ② 学校のニーズがわかりやすくなった
- ③ ボランティアが集めやすくなった
- ④ CS委員会との連携方法がわからない
- ⑤ 今までとの違いがわからない
- ⑥ その他

## Q8 CS委員会で学校支援地域本部の活動について報告や相談をする機会がありますか。(CS委員に委嘱されている方のみ回答)

令和4年度



令和5年度



■ 報告は地域コーディネーター ■ 報告は学校 ■ 機会がない

CS委員会において、学校支援地域本部の活動を報告している委員会は約90.5%であった。地域コーディネーターが報告するCS委員会も増えている。

両輪・協働の関係として、多くの学校で活動報告を行っていることがわかる。

## Q9 CS委員会や学校支援地域本部に関して、学校や教育委員会に対する要望・意見等がある場合はご記入ください。

### 主な意見の内容とそれに対する回答

意見	回答
<p>定期的に意見交換できる場や、交流ができる機会をもっと作ってほしい。</p>	<p>iCSレターの発行や、研修会や情報交換会を開催する等、iCSが機能するような施策を展開していく。 また、研修会や情報交換会はできるだけ多くの方に参加していただけるよう、場所や時間帯について検討する。</p>
<p>学校支援地域本部事業の予算が使いにくい。</p>	<p>予算については、より円滑に活動ができるような予算措置を検討していく。</p>
<p>学校や教育委員会がもっと地域、保護者にCS委員会や学校支援地域本部の活動について広報しなければ、ほとんどの人が認知していないと思う。</p>	<p>CS委員会や学校支援地域本部の広報については、iCSレターや教育広報を活用しているが、より一層の周知に努める。 学校での広報についても引き続きお願いしたい。</p>